

Title	第7号発刊に寄せて
Author(s)	清田, 淳子
Citation	母語・継承語・バイリンガル教育 (MHB) 研究. 7 p1-p.2
Issue Date	2011-03-31
oaire:version	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/25061
DOI	
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

第7号発刊に寄せて

『母語・継承語・バイリンガル教育 (MHB) 研究』第7号をお届けします。

本号では「バイリンガル、バイリテラシーを育てるために」という特集のもと、招待論文2本、研究論文3本を掲載する運びとなりました。

招待論文1の「継承語教育文献データベースの構築—中間報告—」(中島和子、田中順子、森下淳也・著)は、継承語教育の文献をデータベース化するという画期的な取り組みの中間報告で、「継承語日本語教育に関する文献のデータベース化と専門家養成」(科学研究費補助金基盤研究 (B) 代表・中島和子)に基づくプロジェクトの最初の2年間の成果をまとめたものです。文献の収集に関わった世界各地のMHB会員にとっても、一般の継承語教育関係者にとっても、この論文を通してデータベース完成に至るまでのプロセスを共有化することが期待されます。

招待論文2の「バイリンガル教育のためのリサーチ・メソッド—リサーチの種類と必要条件—」(湯川笑子・著)は、バイリンガル研究を進めるためのメタ研究です。MHB紀要第1号から第6号に掲載された論文を事例として、バイリンガル教育の基本的な研究方法がわかりやすく丁寧に示されています。これから研究を構想しようという人や、これまでに行った調査や実践を論文にまとめようという人は、研究の質を高めていく上での重要な手がかりをこの論文の随所に見出すことができるでしょう。

研究論文3本のうち、はじめの2本は期せずして「ベトナム」という共通項をもつ論文となりました。論文1「在日ベトナム系児童の継承語としてのベトナム語能力」(西川(長谷川)朋美・著)は、ベトナム系児童のベトナム語能力をインタビュー調査によってとらえたものです。一方、論文2「ベトナム難民2世の語りにみるバイリンガル育成の可能性—ライフストーリー・インタビュー手法を用いて—」(中川康広・著)は、日本の大学に進学した難民2世とその父親に焦点を当て、彼らがベトナムやベトナム語にこれまでどう向き合ってきたかをライフストーリー・インタビューという手法を用いて明らかにしています。

日本におけるバイリンガル教育においても、1世の子どもに加え、その「子ども」が成人した後をも視野に入れて研究を進める状況に入っていることを、これら二つの論文は示していると言えます。

研究発表3の「多言語環境家族における言語使用とその規定要因—ドイツの母語／継承語補習校の事例に基づいて—」(ビアルケ(當山)千咲・著)は、ドイツの母語／継承語学校に通う子どもたちを対象に、母語／継承語の保持を困難にしている要因を家庭の言語使用に着目して探っています。質問紙調査による豊富なデータは、ドイツ以外の地域で同様の研究実践をしている人々にも多様な示唆を与えてくれることでしょう。

本号の編集・発刊は、友沢昭江、清田淳子の企画担当理事が行いました。

編集作業が大詰めを迎えていた3月初旬、東日本大震災が起きました。被災された会員みなさまには心よりお見舞い申し上げます。地震は紙やインクの不足、あるいは印刷所のサーバーのダウンを引き起こし、紀要の作成にまで影響を及ぼすものとなりました。今、第7号をお届けできる幸せをあらためて思います。そして、本号がきっかけとなって、会の活動に参加してくださる方々の輪が広がっていくことを切に願います。

母語・継承語・バイリンガル教育(MHB)研究会 企画担当理事

清田 淳子

2011年3月